

＜過去3週間の動き＞

(7月23日～8月12日)

USD/RUB: 58.000～64.000

過去3週間のロシア・ルーブル相場は、対ドルで、想定外の続落先行から、反発、その後は61を中心とした狭い値幅に膠着した。7月20日に54.07まで上昇したルーブルは、29日までに63.75まで反落(-15.2%)。1日には局面の安値となる64.00まで続落したものの、同日中に60.60まで急反発(+5.6%)と激しい上下動が先行した。7月11日に発表されたロシア第2四半期経常収支が、過去10年の基調の4倍ちかくに上る黒字を計上した一方、対内外資本取引が著しく制限された現状で、ルーブルの本格的な下落を裏付ける要因を見定めることは困難な作業と言えた。ひとつ考えられたのは、米連銀公開市場委員会(27日)に前後したドル買いの余波。ただし、同委員会結果発表に先駆けて堅調気味の推移を見せたドル指数(ICE)は、予想通りの大幅利上げ(+75b.p.)発表直後から反落しており、ドル/ルーブルの高止まりとは相容れない値動きと言えた。また、米金融政策動向を材料視したのであれば、その後、米7月雇用統計(5月)後のドル高、米7月CPI(10日)後のドル安などに、ルーブルが全く連れなかった値動きにも違和感が強い。もうひとつ、憶測の域を全く出ないものの、考えられたのは、29日のルーブル続落と並行したトルコ・リラ急騰の関係。リラ急騰は極短時間だったが、ロシア製原発建設資金としての(ロシアからトルコへの)融資の影響が疑われた。原発建設資金は総額200億ドル、融資は総額150億ドル、今般の送金額は数10億～50億ドルと観測されたが、或いは、ルーブルで送金されたものを、ロシア当局に代わってトルコ金融機関が売却した可能性は考えられなかっただろうか(後述)。その後、台湾を巡る緊張の高まり(2日のペロシ米下院議長訪問)やOPEC総会(3日)などは、潜在的なルーブル変動要因として一定の留意が必要と思われたが、上述の通り、ルーブルは膠着を続けた。

＜過去3週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
7/27	16:00	小売売上高(前年比)	6月	-9.6%	-9.4%	-10.1%
	16:00	失業率	6月	3.9%	4.0%	3.9%
	16:00	鉱工業生産(前年比)	6月	-1.8%	-2.4%	-1.7%
	16:00	実質賃金(前年比)	5月	-6.1%	-5.5%	-7.2%
8/5	13:00	外貨準備高(USD)	7月	576.9bn		584.1bn
8/8	10:00	国民福祉基金(USD)	7月	198.3bn		210.6bn
8/10	9:35	財政収支(RUB/年初来)	7月	+481.9bn	+803.0bn	+1373.9bn
	16:00	CPI(前年比)	7月	+15.10%	+15.30%	+15.90%
8/12	16:00	GDP(前年比)	Q2 A	-4.0%	-4.7%	+3.5%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

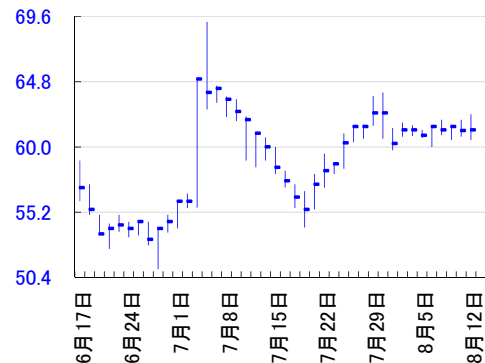
＜向こう1週間の見通し＞

(8月13日～8月19日)

USD/RUB: 59.50～62.50

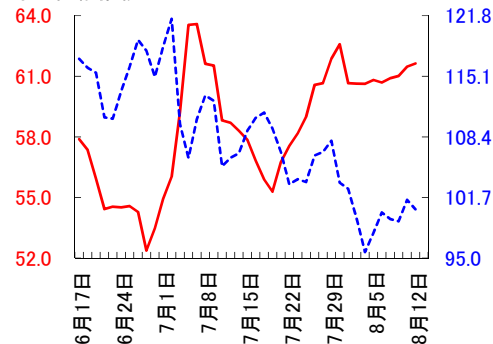
向こう1週間のロシア・ルーブル相場は、巨額のロシア経常黒字と対内外資本取引の不在を背景に、引き続き、ルーブル堅調を中心に見ざるを得ない。内需低迷で景気が減速するとか、戦争継続で軍事費の増大が続くとか、懸念材料はあるものの、ロシアの主要輸出産品が石油など燃料であり、多少の割引は強いられなくてもその買い手が見つかる以上、この構図(資金流)が早晩崩れる可能性は考え難いだろう。ひとつの波乱要因として気掛かりなのは、上述、トルコ原発建設に絡むルーブル売りの可能性。プーチン大統領とトルコのエルドアン大統領は、5日、ソチで首脳会談を行っているが、そこで取り交わされた覚書の重要な項目が「お互いの通貨の活用」で、即ち、ドルやユーロなどを介さない通商関係の確立だった。また、12日には、ロシア財務相が、国民福祉基金(直近残高は1983億ドル相当)の構成通貨にリラの他、人民元、インド・ルピーなどを加える方向性を示唆している。今般のリラ反発は一連の決定に先駆けたものの、原発を(トルコ子会社が)建設するロシア国営原子力企業(Rosatom)も、建設資金を融資するロシア国営銀行(ズベルバンク)も、欧米経済制裁下で自由にドルを送金できないはずではないか。それでも、「非友好的」でない国へのルーブル送金にはなんの差支えもないはずだし、送ったルーブルを、ルーブル売り介入=ドル買い介入ができないロシア中銀に代わって、他国の金融機関が売ってくれるのであれば、ロシアにとっては願ったり叶ったりではなかろうか。

USD/RUBの推移 (日足/ロンドン7:00～17:00)

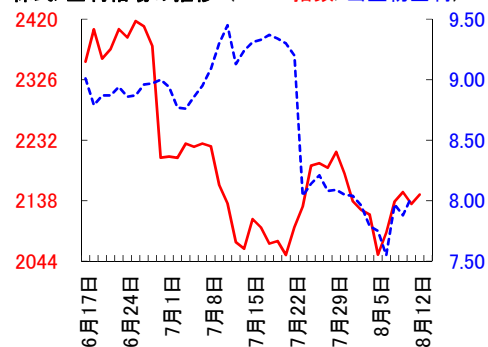


株ルーブル/バスケット推移 (ロシア中銀公示)

原油価格推移 (ブレント直物)



株式/金利相場の推移 (MOEX指数/当翌物金利)



(資料: ロシア中銀/ロイター/ブルームバーグ)

ロシア関係主要経済指標

1週間物入札金利		8.00%
成長率(GDP/前年比)	Q2	-4.0%
失業率	6月	3.9%
消費者物価(前年比)	7月	+15.10%
小売売上高(前年比)	6月	-9.6%
鉱工業生産(前年比)	6月	-1.8%
貿易収支(USD)	1月	+21.2bn
経常収支(USD)	Q2	+70100mln

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。